



和's YAMATO (わずやまと)

2026
春号

- 写真で楽しむ美しい自然 「上発知のシダレザクラ」
- YAMATO TOPICS
群馬クレーンサンデース
ヤマト・ゲームスボンサーマツチを開催
- HCT2026 第54回国際ホテル・レストラン・ショーに出展
- 豊臣秀長 秀吉の活躍を影で支えた知将
- 信長の上洛
- 信長のもとで活躍する秀吉
- 元龜争乱の勃発
- 義昭の追放
- 戦国時代に新秩序を導入した信長
- 琵琶湖をおさえた秀吉
- 郷土史跡めぐり 保渡田八幡塚古墳(群馬県高崎市)
- 群馬の芸術家 茂木絃一



「春風にのる」 ヤマザクラとスズメ 須藤和之画

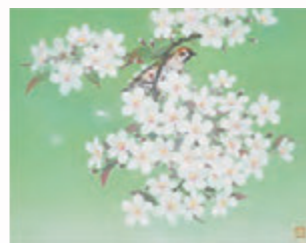


写真で楽しむ 美しい自然

『沼田の名木百選 上発知のシダレザクラ』群馬県沼田市

《撮影》藤重朋紀氏 プロフィール

- | | |
|---|--|
| 1952年 群馬県利根郡みなかみ町生まれ | 2001年 フリー |
| 1971年 群馬県渋川高等学校卒業 | 2010年 写真集「上州路一本桜」 |
| 1973年 東京写真専門学校中退 | 2011年 写真集「上州路」 |
| 1979年 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社 | 2014年 上州(群馬県)から見える「富士山」をテーマに写真撮影を始める。 |
| 1980年 会社の休日を利用して県内の「風景」や「民俗芸能」「画家とアトリエ」など撮り始める。 | 2026年 今まで撮影してきた写真を各テーマごとにまとめた写真展として発表する予定。 |



表紙の絵
「春風にのる」ヤマザクラとスズメ
《F6号》

須藤 和之 プロフィール

Kazuyuki Sutoh Profile

1981年 群馬県前橋市生まれ
 2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠樹)(同2011~25) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~25) 2013年 アーツ前橋開館記念展出品、群馬銀行創立80周年記念収蔵作品制作 2014年 個展(日本橋三越本店)(同2017,20,23) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト)
 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーIII出品 2020年 上毛芸術文化賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト)
 2023年 群馬銀行創立90周年記念 収蔵作品制作 現在 日本美術院院友 群馬県美術会理事 慶應義塾大学非常勤講師(2013~26)
 OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL <http://sutooo.net/>

和's YAMATO わずやまと
2026年春号(第68号)

《和's YAMATOの由来》ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。
 和'sYAMATO初春号 2026年(令和8年)3月発行
 発行:株式会社ヤマト広報室 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

【発行】株式会社ヤマト 〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL:027-290-1800(代) FAX:027-290-1896
 支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、青森
 附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター
 ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



豊臣秀長



秀吉の活躍を影で支えた知将

豊臣秀吉は織田信長に仕え、信長の後継者として天下統一を果たすが、秀吉を支える大きな存在として、弟の秀長の存在があり、軍事と政務の両面から兄の秀吉を支えた。合戦の際、秀長は副将格として軍列に加わり、戦後処理にあたっては、秀吉の補佐役としての能力を存分に発揮した。豊臣兄弟の力の結束が、天下統一という大事業を成しえたといえるだろう。

信長の上洛

足利義昭(あしかが よしあき)は、室町幕府の第15代(最後の)征夷大將軍。永禄11年(1568)7月、信長は越前朝倉氏の庇護を受けていた足利義昭を岐阜へ迎える。同年9月、信長は同盟関係にある徳川家康の軍勢とともに、上洛戦を開始した。この戦には秀吉、秀長も参戦している。織田家宿老の佐久間信盛、丹羽長秀が率いる軍勢とともに、上洛の協力を拒絶した近江六角家

の城である箕作城(滋賀県東近江市)を攻め、その日のうちに落城させた。箕作城の落城を受けて六角承禎は居城の観音寺城(同近江八幡市)から伊賀国(三重県西部)へ敗走し、六角領国であった南近江地域は織田軍によって平定された。その後、信長は美濃立政寺(岐阜県岐阜市)にいた義昭とともに進撃を続け、同月26日に義昭と入京し、義昭と信長は敵対する三好方勢力を攻略する。同月29日には三好方の居城であった摂津芥川城(大阪府高槻市)を攻略し、

翌30日に同城に入り、義昭に味方した三好義継・松永久秀らの従属を確認して、五畿内の平定を成し遂げた。その後、義昭と信長は京都に戻り、10月18日に義昭は征夷大將軍となる。

信長のもとで活躍する秀吉

永禄11年(1568)10月、信長は足利義昭政権の成立を見届けたうえで、岐阜へ戻った。信長は京都の防備と支配にあたらせるため、佐久間信盛・丹羽長秀・木下秀吉らに5000人の軍勢を残した。その後12月末に、秀吉も岐阜に戻った。翌永禄12年1月に義昭・信長の畿内平定により阿波国(徳島県)へ逃れていた三好三人衆(三好長逸・三好宗渭・石成友通)の軍勢が義昭を襲う事件が起きた時、信長は大雪の悪天候にもかかわらず、京都に駆けつけた。この時、秀吉も信長に同行した。4月以降、秀吉は丹羽長秀・中川重政と義昭の直臣でもあった明智光秀とともに、京都周辺における権益保証や紛争の裁定などの政務に携わった。

足利義昭政権の運営は、父・義晴、兄・義輝から継承された奉行衆(事務官僚)が政務を執っており、軍事面では義昭に味方し

ている和田惟政、池田勝正、松永久秀など諸將を配置してそれぞれ支配を認めた。義昭政権は五畿内を統治する政治権力としての実態を持ち、信長は政権の運営に直接関与しなかった。義昭は、敵対する三好方勢力に備えて、自身を政治的・軍事的に支えてくれる信長の存在が必要と認識していた。信長は義昭の要請に応える形で、幕府の外部から義昭を支えた。足利將軍は、畿内の有力権力者を後ろ盾にして、連立関係を結んで統治にあたった。これは、足利將軍の権威を背景にした「天下」を収める形だった。

足利義昭政権のもとで、秀吉は京都周辺の政務に携わっていたが、永禄12年5月、安芸国(広島県西部)の大名・毛利元就は、領国内で反乱が発生したため、信長に援護を求めてきた。毛利家は出雲国(島根県東部)を支配していたが、毛利家に敗れた尼子家の残党が挙兵したのだ。元就からの援護要請に、信長は同年8月に秀吉に但馬国の侵攻を命じた。秀吉は18の城を攻め落とし、この頃の秀吉は、織田家の重臣として活躍しており、弟の秀長も彼と行動をともにしていたと思われる。



上杉本陶版『洛中洛外圖』に描かれた「花の御所」
京都アスニー收藏

絵の右側が北となっており、烏丸通(絵の下部)に面した東側の門から出入りする人々なども描かれている。足利家の治世(1336~1573年)は、1378年に第三代將軍足利義満によって京都の室町に「花の御所」が置かれたことから室町時代と呼ばれた。応仁元年(1467)、「応仁の乱」の戦火で焼失。

「花の御所」は、文明年間(1469~8)に何度か再建を経て、永禄2年(1559)、第13代將軍・足利義輝が旧管領斯波武衛家の室町中御門邸跡(現在の平安女学院付近)に「二条御所(旧二条城)」を造営し幕府を置いたことに伴い廃止。

所在地:京都市上京区室町通今出川上ル東側



旧二条城跡の碑
所在地:京都市上京区

この帯は永禄12年(1569)織田信長が將軍足利義昭のために造営した二条城(現二条城とは別の跡である。堀をめぐらせ、高い石垣に櫓を設け、城内も庭園や建物に粋を凝らした堅固で華麗な城郭であった。天正元年(1573)信長により義昭が追放され、城は取り壊された。

所在地:京都市上京区
下立売通室町角

元亀争乱の勃発

元亀争乱は、將軍足利義昭織田信長と、朝倉義景浅井長政・三好勢力大坂本願寺などの反織田勢力との対立を軸に展開した大規模な内乱である。

元亀元年(1570)、信長は若狭への出兵を経て越前の朝倉氏攻めを実行するが、その途上で同盟関係にあった浅井長政が離反する。浅井家は織田・朝倉の均衡が崩れれば、存続が脅かされる立場だった。浅井氏は、軍事的な圧力を活用して勢力拡大を

続ける織田よりも、先祖代々から深い協力関係があった朝倉側につく決断を下したのである。信長は、浅井氏への通告無しに朝倉氏攻めを敢行したことに對する不信感もあつたとされている。

この浅井氏の裏切りにより、信長は越前侵攻を中止して京へ撤退(いわゆる金ヶ崎の退き口)した。この撤退は、信長にとって生涯で最大の危機といわれている。木下秀吉明智光秀・池田勝正らが殿軍を担い、朝倉浅井軍の追撃を防いだ。

信長は体勢を立て直し、近江地域の軍事拠点を強化した上で、將軍義昭や徳川家康

の軍勢も加えて浅井討伐に乗り出す。浅井軍には朝倉軍が救援として参戦し、元亀元年6月、近江国の姉川流域で姉川の戦いが起こる。織田徳川連合軍は半日にわたる激戦の末勝利した。戦後、秀吉は琵琶湖の北岸の要衝横山城を拠点として、浅井氏の本拠・小谷城攻略の指揮を担うようになった。

織田方は着々と浅井包囲網を築くが、戦局は樂觀できるものではなかった。畿内では三好勢力が再起し、さらに朝倉・浅井と結んだ大坂本願寺の顕如が檄文を発し、向搦が各地で蜂起する。加えて比叡山延暦寺も反織田勢力に与し、信長は東の朝倉・浅井、

西の三好勢力、各地の一向多方面からの圧迫を受ける。こうして「元亀争乱」と呼ばれる複合的な内戦状態となり、信長は戦局の打開を図るため、二時的に各勢力と和睦せざるを得なくなった。

元亀二年には再び戦火が拡大する。信長は前年の延暦寺の敵対行動に対する報復として比叡山焼き討ちを敢行した。この行動は宗教弾圧との見方がある一方、反織田勢力への軍事的加担に対する政治的報復という側面も持っていた。焼き討ち後、明智光秀が志賀郡を与えられ、坂本城を築いて支配を進めた。



織田信長像
神戸市立博物館蔵



足利義昭像
東京大学史料編纂所蔵

義昭の追放

元亀3(1572)年には、武田信玄が反織田陣営に加わり、信長はさらに苦境に立たされる。信玄の参戦は、徳川家康との確執や東美濃をめぐる対立など、勢力圏の利害が背景にあった。この情勢悪化のなかで、將軍義昭も信長への不信を深め、やがて反織田方と連携して信長に敵対する姿勢を明確にする。信長は義昭との関係修復を試みたが実らず、ついに京都の一部を焼き討ちして圧力をかけ、最終的には義昭を降伏させ、京都から追放した。これにより室町幕府政権は事実上崩壊し、信長の権力はさらに強まることとなった。

その後、信長は朝倉義景を討伐するため越前へ侵攻し、義景は「乗谷を放棄して形勢逆転を図るもの」の一族の裏切りによって自害に追い込まれ、朝倉家は滅亡する。続いて朝倉氏が領有する小谷城攻めが本格化し、秀吉は城内の要所を攻略して浅井長政は自害し、浅井家は滅亡した。この過程で秀吉・秀長兄弟は、戦乱で追われた住民の帰還を促し、軍勢による略奪の禁止を保証するなど、戦後統治を見据えた対応を行っている点が注目される。

浅井氏滅亡後、秀吉は旧浅井領を与えられた。小谷城を居城として統治を任せられた後、琵琶湖の水運を利用できる今浜に新城を築き、地名を「長浜」と改め、長浜城を築き、城主となる。秀吉は税の徴収や紛争処理など統治者として領国経営を進め、後の天下取りへの布石を固めていった。

一方、信長は反抗を続けた伊勢長島の一向一揆を根絶するため、天正3年(1575)に大規模な討伐を実施する。この戦いには木下秀長が信長直臣として参戦し、海上からの補給を遮断し、長島を完全に孤立させる戦略を実行する。元亀争乱を通じて信長は敵対勢力を次々と排除し、中央権力の確立へと大きく前進した。その過程で秀吉は軍事・行政の両面で経験を積み、有力な戦国大名としての歩みを確実なものにしたのである。

戦国時代

新秩序を導入した信長

元亀争乱の本質は、単なる信長対反信長勢力の軍事衝突ではなく、將軍権力・宗教勢力・在地領主層・新興戦国大名の利害が複雑に絡み合った「権力再編の過程」ととらえることができる。將軍義昭は、信長の軍



近江八景 堅田落雁 【著者 広重 安政4年】
国立国会図書館デジタルコレクション



東海道名所之内 比叡山 【東海道名所風景 文久3年】
国立国会図書館デジタルコレクション

豊臣秀吉・秀長 関係年表

天文6年(1537)	2月	秀吉生まれる
天文9年(1540)		秀長生まれる
天文13年(1544)		父・弥右衛門死去
天文21年(1552)頃		秀吉が今川家家臣・松下家に仕え、木下藤吉郎と名乗る
天文23年(1554)頃		秀吉が織田信長に仕える
永禄9年(1566)		秀吉、「墨俣一夜城」を築く(諸説あり)
永禄11年(1568)	9月	信長上洛、秀吉が六角氏方の箕作城攻めで戦功をあげる
元亀元年(1570)	4月	秀吉、朝倉氏討伐の撤退の際に殿を務める(金ヶ崎の退き口)
元亀3年(1572)		秀吉、「木下」から「羽柴」に改姓
	9月	秀吉、浅井家の旧領北近江三郡を与えられ、長浜城主となる
天正2年(1574)	7月	秀長、信長馬廻として伊勢長島一向一揆攻略で先陣を務める
天正3年(1575)	5月	秀吉、「長篠の戦い」に従軍
天正5年(1577)	10月	秀長、但馬侵攻の総大将を務め、竹田城の城代となる
天正6年(1578)	3月	秀吉、三木城の攻略を開始
天正8年(1580)	1月	三木城城主・別所長治が降伏し切腹
	4~5月	秀吉、播磨・但馬両国を平定
天正9年(1581)	10月	秀吉、鳥取城を兵糧攻めし降伏させる
天正10年(1582)	3月	秀吉、備中に進軍し、秀長も従軍。高松城を包囲
	6月	本能寺の変。秀吉、山崎の合戦で明智光秀を破る
		清須会議の結果、秀吉の領土拡大
		秀長、丹波福知山を拝領
		秀長、嫡子・与一郎を亡くし、惟住長秀三男・千丸を養子とする
天正11年(1583)	4月	秀吉、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家に勝利
	5月	秀吉が織田家諸將の領国分配・転封を行い、秀長は播磨・但馬の二ヶ国を拝領
天正12年(1584)	4月	秀長、伊勢松ヶ浜城を筒井順慶らと攻略
	11月	秀吉、小牧・長久手の戦いののち、織田信雄と和睦
		秀長、「長秀」から「秀長」に改名
		秀吉、従三位・権大納言となる
天正13年(1585)	3月	秀吉、正二位・内大臣に昇進し初参内
		秀長、紀州征伐ののち紀伊・和泉を拝領
	6月	秀長、総大将として四国に出陣
	7月	秀吉、従一位・関白となる
	閏8月	秀長、大和を拝領し郡山城に入る
	9月	秀吉、豊臣への改姓を許可される(諸説あり)
	10月	秀長、参議・近衛中將になり参内
天正14年(1586)	5月	秀吉・秀長の妹・朝日(南明院殿) 家康に輿入れ
	4月~11月	大友宗麟、上杉景勝、徳川家康が上坂して秀吉に出仕、秀長が接待
	11月	秀長、正三位・権中納言となる
天正15年(1587)	2月~4月	秀吉・秀長、九州へ出陣し、島津氏を降伏させる
	8月	秀長、従二位・権大納言となる



浅井長政像
高野山持明院蔵

また、木下秀長の動向からは、織田政権内部の人材配置の多様性も読み取れる。秀長は必ずしも兄秀吉の配下として行動したわけではなく、信長直臣として独自に軍事行動に参加している。これは、織田政権が「族的な結合だけでなく、主従関係を軸とした機能的な軍事行政組織へと変化しつつあったことを示している。兄弟でありながら

秀長の幼名は小竹。通称は小一郎。おもな官位は権大納言・美濃守。大和納言とも呼ばれた。秀長は天正12年に「秀長」に改名し、それ以前は「長秀」と名乗っていた。混乱を避けるため、本稿では秀長に統一して表記した。

主要参考文献：『日本史の中の兄弟たち』安藤優一郎著
文：木下直也

勢力を背景に室町幕府政権の再建に成功したものの、信長の勢力拡大が進むにつれ、將軍権力は次第に形骸化し、実質的な政治権力は信長に移行していく。義昭の反信長化は、將軍権威を守ろうとする政権奪取の抗争であり、朝倉・武田・本願寺と結びつくことで、信長に対抗しようとした試みであった。

琵琶湖をのさえた秀吉

信長の軍事力を行使して政治決着を図る手法の一方で、秀吉の行動には、軍事政策とは異なる「穏健な領国統治」の視点を見ることができている。小谷城攻めの過程で、住民の帰還を促し、略奪の禁止を命じた文書は、戦乱の終結後に地域社会を早期に安定

いたため反抗するが、政治的決着をつけるため軍事力で制圧する。比叡山焼き討ちも、軍事力を持つ宗教勢力が軍事的に反織田方に加担したため排除したのであり、政治的な側面が強い。信長は「武力による政治秩序再編」を徹底して進める姿勢を貫くのがだった。

させ、年貢徴収や物流を回復させる意図を持っていた。これは領国経営を安定させるための実利的な判断であり、秩序を構築して支配体制を整備する手法を採用している。これは、後の太閤検地や刀狩などにつながるものと考えられる。

さらに、秀吉が長浜に拠点を移し、琵琶湖水運を活用できる権益を得たことは大きな意味を持つ。近江・美濃・京都を結ぶ物流網を掌握することで、経済的基盤の強化につながった。長浜城下の形成は、軍事拠点であると同時に商業都市としての発展を志向したものであり、秀吉が単なる武将から「経済と軍事を一体で運営する大名」へと転換していく過程を示している。ここに、後の大阪城下町の建設や、楽市楽座政策につながる都市経営の原型を見ることができ

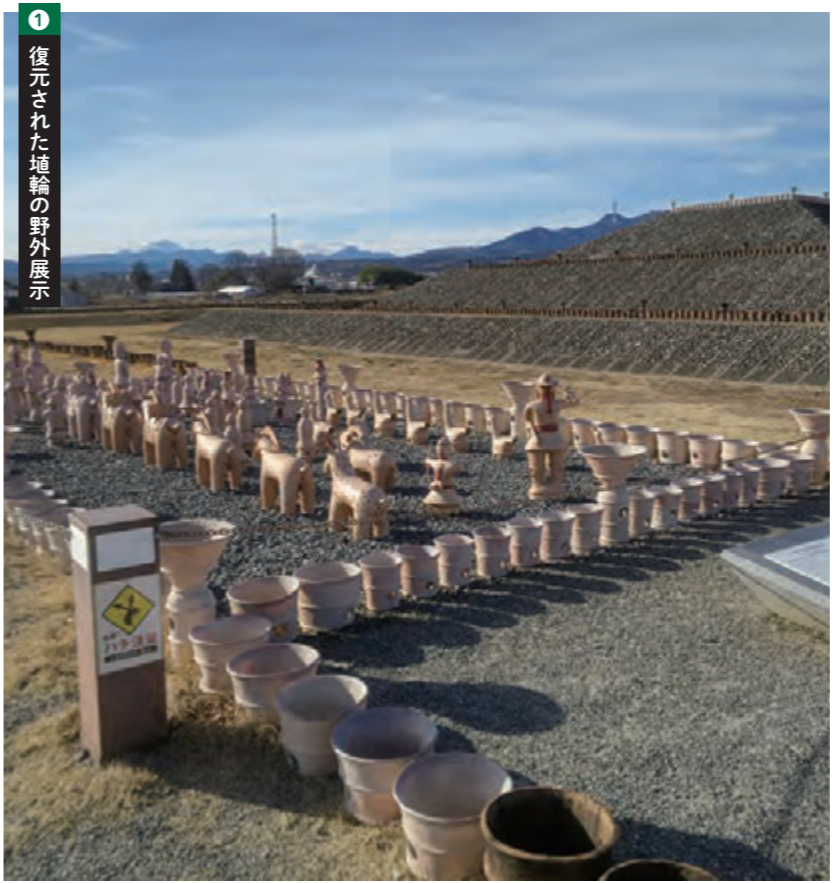
別の立場で行動することは、後の豊臣政権における分業体制の原型ともいえる。総じて元亀争乱は、信長が「天下人」への道を決定的に切り開いた過程であると同時に、秀吉が地方統治を担う実務型の大名へと成長する転換点であった。この争乱を通じて、旧来の將軍中心の政治秩序、寺社・国衆を軸とした中世的権力構造は大きく後退し、武力と行政を二体化させた新しい支配体制が形づくられていったのである。



姉川の戦い石碑
所在地：滋賀県長浜市

保渡田八幡塚古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員 塩谷 貴彦



(令和8年1月20日撮影)

1 復元された埴輪の野外展示

保渡田八幡塚古墳の概要

保渡田八幡塚古墳は、榛名山の南東部、井野川上流にある前方後円墳です。近くにある井出二子山古墳や薬師塚古墳と合わせて保渡田古墳群と呼ばれています。いずれも5世紀後半から6世紀初頭にかけて造られたと考えられています。この保渡田八幡塚古墳は、南北方向を主軸とし、全長96mの規模を誇る葺石を施された三段築成の前方後円墳です。古墳の存在に加えて周辺に同時期の大規模な豪族居館や集落が確認されていることから、この地域一帯に勢力をもつ有力な豪族が存在していたと考えられています。

1985年に国の指定史跡となり、複数回にわたる調査結果を踏まえて復元整備され、高崎市「上毛野はにわの里公園」として開放されています。無数の埴輪が野外に展示され、「埴輪の公園」として県内外から多くの観光客が訪れる場所ともなっています。

埴輪に注目

このように、埴輪、特に人物や動物を模した形象埴輪が注目されているのは理由があります。それは、1929年に行われた発掘調査で墳丘上から円筒埴輪や、形象埴輪50体以上が確認されたことから始まります。この発掘成果を元にして、墳丘の中央部の人物埴輪群の配置に着

目した水野正好氏は、この埴輪群が、「死して葬られた族長の霊を、新たな族長が墳墓の地で引き継ぐ王位継承の儀式を表している」という説を提唱しました。それまで、権威の象徴や副葬品としての意味しかないと考えられていた埴輪に、後世へのメッセージが含まれているとしたこの説は、その後の埴輪群研究に大きな影響を及ぼしたとされています。

1929年の調査では、人物30体ほど、馬8体、水鳥6体、鶏2体などの形象埴輪が確認されましたが、その後の調査でも古墳の前方部を中心に発見が続きました。

これら近年の保渡田八幡塚古墳における発掘調査の成果から、若狭徹氏により「埴輪群は儀式を表したもののほかに、まつりや狩りの様子など、全部で7つの場面に分けられる」とする説が出されています。このことから、若狭氏は「埴輪群は、墓の主である豪族が生前に行ったさまざまな儀礼や生活活動・政治活動を表したものだ」と考えています。

墳丘の円筒埴輪と石棺

また、保渡田八幡塚古墳からは、形象埴輪とともに円筒埴輪も多数出土しています。墳丘には、通常の円筒状のものと、朝顔形の円筒埴輪が一定間隔で並べられた状態で出土しました。形象埴



4 王の儀式(かみつけの里古墳祭り)



2 出土した形象埴輪 盾持ち人



3 出土した形象埴輪 水鳥

輪も含め、出土した地点の正確な記録から埴輪の配置が明らかになっている点が重要であり、現在の公園内における復元につながっています。

初期の発掘調査では発見されず、失われたと考えられていた舟形石棺が、1993年に発見されました。舟形石棺は後円部墳頂の地下1mに埋設されており、堅穴系小石塚も確認されています。全長3.1m、幅1.5mの堂々たる石棺でしたが目立った副葬品はありませんでした。ガラス小玉200点ほどが出土しています。また、石室外から鉄製農具のミニチュアや高坏など複数の土師器が出土しています。

現在、円筒埴輪列や石棺も復元されて、実際に墳丘に登り、見る事ができます。

歴史イベントと古墳

保渡田八幡塚古墳のある高崎市では、この貴重な文化遺産を舞台にして「かみつけの里古墳祭り」を毎年10月に開催しています。お祭りでは、発掘調査の研究成果をもとに制作した、オリジナル脚本や復元された古代の衣装による「王の儀式」の再現劇が上演されます。出演者はすべて、公募によるボランティアです。毎年多くの人々が、1500年ほど前の儀式や生活に思いをはせています。

かみつけの里博物館

古墳に隣接してかみつけの里博物館があり、保渡田古墳群全体や保渡田八幡塚古墳について詳しい説明があります。ぜひ古墳とともに訪れてみてください。火曜日が休館日なので、ご注意ください。



遺跡までのアクセス

- JR前橋駅より関越交通バス土屋文明記念館行き、かみつけの里博物館前下車(約30分)
- JR高崎駅より群馬バスしんとう温泉・旧榛東村役場行き、秋葉前下車(約30分)、徒歩5分
- 関越自動車道前橋1Cより車で約15分

参考文献
 ・水野正好「埴輪芸能論」『古代の日本』1977年
 ・若狭徹「埴輪は語る」2021年
 写真提供
 ・高崎市教育委員会

茂木 紘一

美術研究家 染谷 滋

旅と酒と音楽と、人生を満喫する洋画家

前橋市立図書館の《前橋駅前風景》

一九七四年(昭和四九)五月にオープンした現在の前橋市立図書館には、開館以来ホールに飾られている油絵がある。茂木紘一の二五〇号の大作《前橋駅前風景》だ。五年前には傷んだその絵を修復するため、市民有志が資金を提供して作家に修復を依頼し、額装も新調された話が記憶に新しい。

作品の正面に描かれているのは一九二七年(昭和二)に建てられた洋風木造建築の旧駅舎で、そこから伸びるけやき並木は今でも健在だが、駅舎は一九八四年から始まった高架化改修工事で姿を変えた。その際に当時の前三百貨店が企画して、茂木紘一のオリジナル版画《前橋駅前風景》を制作し限定販売したことがある。また、二年前に駅前のアケル前橋内に開館した「ヒストリア前橋」にも《前橋駅前風景》が展示されているが、これは前橋西ロータリークラブが寄贈したものである。

こうして皆から愛されていた旧前橋駅舎は、茂木紘一の絵とともに今でも前橋市民の思い出となって生きている。

た作品である。

この頃の茂木の作品には、前橋駅や伊香保の石段など、故郷の風景をモチーフにしたものが多いが、そこに祭りのテーマが加わってやがて「お祭り画家」の異名を取った。毎年のように受賞も続き、いちいち記している紙面が足りない。一九七九年に第三回上毛芸術奨励賞を受賞した際には、十年連続受賞の夢がかなったと語っている。

画家の団体による公募展だけでなく、美術関係者が選抜するシエル美術賞展や昭和会展、栃木県立美術館の北関東美術展などにも選ばれているからその実力は保証付きだ。



御開帳の日(F100)

前橋に生まれ、前橋に戻るまで

茂木紘一は一九四二年(昭和一七)七月二六日に前橋の中心街に生まれた。父親は株式会社ヤマトの前身でもある理研工業に勤めていたが、戦後は鉄工所を経営した。

茂木は桃井小学校、前橋一中、前橋高校と、今ではエリートコースと思える道を進むが、勉強は好きではなく、美術・音楽・体育が好きな活発で人気者の性格だった。前橋高校三年生のときに、第二回県展に旧協和銀行を描いた《建物A》という作品が入選するほど絵は得意で、その傍らブラスバンド部を創設して初代部長になっている。

美術学校へ進学したいと望んでいた茂木だったが、たまたま東京の証券会社の試験があり、東京に行けるという理由で面白半分を受験したら合格してしまふ。辞退できなくなり就職。証券会社でも皆から好まれるアイデアマンで、便利屋のような使われ方をしていたのだが、絵の道が諦めきれず桑沢デザインスクールの夜間部に通うようになる。しかし二重生活は長く続かず、会社を辞めて時間が自由になるアルバイト生活へ。楽器運びの仕事をしたというか

終わらない挑戦

結婚して二人の娘にも恵まれ、順風満帆の画家生活ではあるが、茂木は安住を好まない性格のようで、期待されていた創元会を二〇年余りで退会、八回も入選していた日展への出品も止めてしまう。その後二紀会に出品した時期もあるが、これも三回で止めた。県展や市民展も止めようと思った時期があったようだが、にぎやかでお祭りに似ていたためか長く続き、とうとう二〇二二年(令和三)には県美術会の会長に就任、前橋市民展でも二〇二二年から委員長を務めて現在に至っている。

一九八五年から始めた「商工まえばし」の表紙絵連載は、毎月前橋市内をテーマに二〇年も続いた。旅行が好きでヨーロッパの街並みは赤い屋根のトリードマークで多くの作品を残し、インドネシアやネパールなどにも足跡を残した。近年では「まぐれ旅」と称して県内だけでなく県外にも多く出掛け、身近な風景を描き続けている。

茂木紘一ほど多趣味な人は稀で、車だけでなくホンダのバイクを三〇年以上乗り回し、前橋弁天通りで毎月三日に開催される「弁天ワッセ」ではギター片手に歌い、「緑風街」という日本酒造りでは毎年米を植えるところから汗を流す。喜寿の記念に始めたパラグライダーは今でも誕生日の恒例イベントになっている。

健康の秘密は週に三、四回通っている水泳にあるようで、これは四〇年以上も続いているそうだ。現在八三歳。その挑戦は続く。

ら、音楽はいつも茂木の傍らにあった。

にぎやかなことが大好きな茂木は酒にも目がなく、やがて新宿の飲み屋街に出入りするようになるのだが、たまたま沼田出身のバーのホステスと出会い「前高を出た人がこんな生活をしてはいけな」と諭されて帰郷を決意する。六年ほど続いた茂木の東京放浪はこうして終わる。

絵描きパワー全開

帰郷した茂木が絵を描き始めたのは、公民館で活動していた前橋洋画クラブだった。リーダーは当時創元会の会友だった渋谷光典で、渋谷は創元会を足掛かりにして日展に入選することを目的としていたため、茂木も自然と同じ道を進むようになる。

県展へは一九六七年の第一八回展から出品を続け創元会は一九七〇年の第二九回展で初入選。さらに前橋市民展にも出品するようになった。

一九七三年、多くの画家が憧れる日展に初入選。これがヒストリア前橋に展示されている《前橋駅前風景》だ。ちなみに市立図書館の作品は一九七四年の第三三回創元展で、日奈生賞を受賞し会員推挙となつ

略歴 茂木 紘一 KOUCHI MOGI

- 1942 前橋市に生まれる。
- 1961 県立前橋高校卒業。
- 1967 第18回県展に入選。以後毎年。
- 1970 第29回創元展に初入選。以後1981年まで出品。
- 1973 第5回日展に初入選。以後8回入選。
- 1974 第33回創元展で日奈生賞受賞、会員推挙。
- 日仏現代美術展(パリ)に出品。
- 昭和会展(日動画廊)招待出品。以後8回。
- 1976 第21回シエル美術賞展で佳作賞受賞。
- 1977 第3回上毛芸術奨励賞受賞。
- 1980 第3回北関東美術展(栃木県立美術館)に入選。
- 1984 第38回二紀展に初入選。以後1986年まで出品。
- 1985 月刊誌「商工まえばし」の表紙絵を担当。(〜2005)
- 1988 芸術文化教室「ドマーニ8」開講。
- 1995 前橋文学館「現代前橋美術作家展」に出品。
- 第46回県展で山崎記念特別賞受賞。
- 1998 大和設備工事(株)で個展「ふるさと前橋百景」。
- 2009 群馬県立近代美術館「群馬の美術」に出品。
- 2011 (株)ヤマトで二度目の個展。旅をテーマに展示。
- 2013 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ」に出品。
- 2014 上毛新聞社主催「群馬の作家59人展」に出品。
- 2016 群馬県総合表彰。
- 2018 前橋市美術会展を開催し第1回展開催。以後毎年群馬県美術会会長に就任。
- 2021 群馬県功労者表彰。
- 2025 企業メセナ群馬芸術文化功労賞受賞。

群馬クレインサンダース



「ヤマト・ゲームス」ホンサーマツチを開催

群馬クレインサンダース(B・LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム)の2025-26シーズン・ホームゲームが2025年12月27日(土)にオープンハウスアリーナ太田(群馬県太田市)で行われました。当社は群馬クレインサンダースのオフィシャルプラチナパートナーで、この試合は当社がゲームスポンサーとなって開催されました。入場者数は5102人でした。

会場では、先着300名にシフォンケーキ、来場者全員にYAMATOオリジナルカップをプレゼントしました。また、会場の構内に展開された物品



会場内ではヤマトのCMが流れました



迫力のある試合



超満員の会場

販売の「OTAMALシエ」では、道の駅まえばし赤城で取り扱っている「蒟蒻畑まえばしバナナ味」などを販売しました。

対戦相手は「三遠ネオフェニックス」で、元日本代表の吉井選手や、元NBA(全米バスケットボール協会)選手などが所属するチームです。サンダースは最終試合の主導権を握り、第1クォーターは30対13と大差をつけ、その後もリードを広げて96対69で快勝しました。サンダースはネオフェニックスから2022年以降の白星をあげ、快進撃が続いています。

(広報室 木下記)



サンダースの選手とともに記念撮影

国際ホテルレストランショー2026 JAPANサウナ・スパEXPOに出展

自然対流式熱交換器内蔵浴槽を展示

かけ流し風呂付客室に最適

温浴施設の設定などを展示する展示会「国際ホテルレストランショー2026 JAPANサウナ・スパEXPO」が2月17日(火)〜20日(金)まで、東京ビッグサイトで開催され、当社が出展しました。

当社ブースでは、自然対流式熱交換器内蔵浴槽を展示し、PR・デモを行いました。自然対流式熱交換器内蔵浴槽は、浴槽下部のお湯が熱交換器で温められて浮上することで対流が生まれ、浴槽全体のお湯の温度をほぼ一定に保ち、かけ流し風呂付の客室に最適なシステムです。

少量・低温の温泉でもかけ流しが可能となり、湯張り、温泉の補給、湯温を自動でコントロールできます。複雑な配管工事が必要とせず、1室の改修から導入できます。(広報室 木下記)

温浴施設の設定などを展示する展示会「国際ホテルレストランショー2026 JAPANサウナ・スパEXPO」が2月17日(火)〜20日(金)まで、東京ビッグサイトで開催され、当社が出展しました。

当社ブースでは、自然対流式熱交換器内蔵浴槽を展示し、PR・デモを行いました。自然対流式熱交換器内蔵浴槽は、浴槽下部のお湯が熱交換器で温められて浮上することで対流が生まれ、浴槽全体のお湯の温度をほぼ一定に保ち、かけ流し風呂付の客室に最適なシステムです。

少量・低温の温泉でもかけ流しが可能となり、湯張り、温泉の補給、湯温を自動でコントロールできます。複雑な配管工事が必要とせず、1室の改修から導入できます。(広報室 木下記)



展示ブースの全景



自然対流式熱交換器ホームページ
https://www.yamato-se.co.jp/technology/heat_exchanger_bath_system/

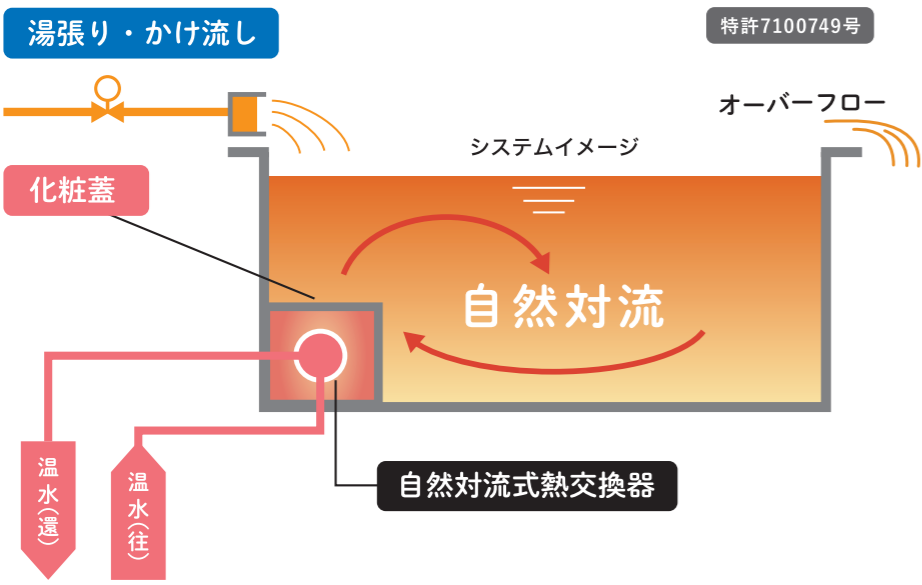


来場者に説明

導入実績

- サンクチュアリコート日光……………162基導入
- 赤沢迎賓館……………15基導入
- 辰巳館……………8基導入
- 日光ガーデンホテル……………3基導入

自然対流式熱交換器内蔵浴槽システムイメージ



自然対流式熱交換器内蔵浴槽



自然対流式熱交換器